

平成30年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立桐蔭高等学校 学校長名：清水 博行 印

めざす学校像 育てたい生徒像	自ら人生を切り拓く人を育てる学校 改革への情熱と伝統を重んじる心を兼ね備えた生徒
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 主体的な学習姿勢の育成につながる教員の更なる指導力向上
	2 高い進路目標を実現させるための組織的かつ系統的な取組の充実
	3 生徒の自主的・自律的な生活習慣・学習習慣の確立
	4 中高一貫教育の充実深化に向けた具体的方策の構築

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 桐蔭 FD による授業改善を実施する。教え込む授業から、自ら考えさせる授業への転換。 教育環境を見直し、より効率的で効果的な教育体制の構築。 教育課題を抱えている生徒に対する対応の組織化。 「桐蔭祭」をはじめとした生徒の主体的な活動の活性化。
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	保護者に対して自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても広く公表する。

成 度	A	十分に達成した。 (80%以上)
	B	概ね達成した。 (60%以上)
	C	あまり十分でない。 (40%以上)
	D	不十分である。 (40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重点目標					年度評価 (2月21日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	知識・技能を定着させることが現在の課題である。「押しつけられた学習」でなく、「わかる授業」更には「面白い授業」へと授業の質の向上をはかり、生徒に学習意欲や目的意識を持たせることで、学習時間を増加させるとともに、主体的・能動的な学習態度を育成する取組が必要である。	生徒の自主性を高め、学習意欲を喚起する授業が各科目において展開されているか。 生徒の実態把握に努め、実態に応じた指導がなされているか。教科の教員が全体として学習指導方法の改善に取り組んでいるか。	<ul style="list-style-type: none"> 進学補習や基礎補習の充実 個別指導の充実 学年・教科等の連携による家庭学習時間確保の指導 桐蔭S Tの分析および対策 家庭学習の指導を踏まえた計画的な課題提示のための教科内外での情報交換協議 	<ul style="list-style-type: none"> 各種補習、添削指導や個別指導、質問対応の実施状況 実態調査にみられる家庭学習2時間未満の生徒の割合減少 学年会・教科会での情報交換、成績会議の実施 	研究授業や公開授業が積極的に行われる風土が定着しつつある。1,2年生の夏期補習は出席率が高いが、3年の夏期補習については登録者は多いが日々減少する傾向にある。学習時間については、依然として2時間未満の生徒が多い。受け身の生徒が多く、主体的・能動的な学習実現という面では、やや不十分な点が残されている。	B	次年度から50分授業となり短時間集中型の授業が求められるため、さらなる授業力の向上を目指す必要がある。同時に高密度な授業に対する生徒の学習姿勢の育成が課題となる。また、テスト期間以外でも継続的に学習するよう、学習の動機付けや、計画的な課題提示等が必要となる。考査以外の評価方法の検討も必要である。
2	生徒の多くは、憧れの高校に入学出来た喜びと、文武両道を実践しようとする意志を持って入学してくる。しかし、自分の持つ才能や能力を十分に活かせる将来設計や、大学選びが出来ていない生徒も少なくない。難関大学への進学を本気で目指し、努力する生徒集団に育てることが課題である。そのための基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促し、一人一人の進路希望の実現と、高い能力を活かした将来設計のための組織的かつ系統的なキャリア教育が必要である。	生徒のキャリア発達を促し、自らの人生を切り拓きつつ、社会に貢献できる人材育成のために、基礎的・汎用的能力を育成するための指導を組織的に行っているか	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリア桐の葉」各プログラムの実施 桐蔭リーダー塾やジョブシャドウイング等の体験学習の機会の有効活用 「進路だより」による継続的な生徒への働きかけ、進路講演会、オープンキャンパス、桐蔭総合大学等への積極的な参加の啓発 日常的な面談等を通して生徒自身による現状分析と課題の発見を促し、自学自習力をつける 現職教育、進路検討会や成績分析会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリア教育・進路に関する調査」、「付けたい力30」、等の各種調査を用いた分析・評価 「進路だより」の発行時期と内容 開催回数や参加人数及び生徒への事後アンケート等による調査 難関大学への出願者数120名 全教員が少なくとも1回の研究授業を実施 	R80を自己評価に取り入れて年3回実施した。キャリア桐の葉のカリキュラム内容がマニュアル化された感があり、担任の色が出しにくかったが、生徒の基礎的汎用的能力の育成に寄与出来た。定期的な「進路便り」の発行、2年生全保護者への進路説明会を実施し情報提供が出来た。英語のGTECを新テスト対応として1・2年生全員に受験させた。担任による個人面談や進路講演会による学習に対する動機づけの補強も出来た。難関大学への挑戦を根底に持ちながら、自身の能力が最大限に発揮できる環境はどこなのかを、オープンキャンパスへの参加・キャリア桐の葉での能動的な学習などを通して追求出来た。各種研究会への教員の積極的参加もみられた。卒業生による協力も得られた。	A	キャリア桐の葉のカリキュラム内容をルーブリック評価等を取り入れた自己評価の視点で内容修正をはかり、能動的な学習を促せるように学校行事との連携を模索する。入試改革の進む中、「進路便り」や担任への速やかな情報提供を心がけ、アンテナを高くし、各種研究会にも積極的に参加していくこと。保護者への進路説明会や生徒向け進路講演会なども利用して、情報発信していく。難関大学へのチャレンジの意欲が年々高まっているが、CT 最終年のため現役志向が強まることも考えられる。結果を恐れずに最後まで第1志望を貫き出願させる体制を、職員全体の共通認識としてつくり出す。保護者会や地区懇談会、三者面談を通して「挑戦」の進路指導を共有する。
3	一部に遅刻、身だしなみの課題を残すが、生徒は概ね規律ある学校生活を営んでいる。今後は生徒のキャリア形成に資するよう、風紀面に留まらず学習活動も含めて自立性の涵養が課題である。また人間関係構築の未熟や心の課題を抱える生徒への支援の要請が強まっている。生徒が安心して過ごす学校環境の維持といっそうの充実を図り、挨拶を皮切りに自ら踏み出すことへの積極性を育てる意識を職員共通のものとする。	生徒が自律的に行動し自己管理能力を高める支援のための重点項目としての、 <ul style="list-style-type: none"> 遅刻、下校指導 交通安全指導 身だしなみと持ち物の管理指導 相談体制の組織化と効率化 職員からの声かけ、挨拶の励行 中高を一貫しての生徒指導が適正に行われているかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己責任の遅刻を3回以上繰り返す生徒数が学期で10人を越えない。 交通規則のセーフティーカード発行数50件以下。 毎月の登校時の校外指導の実施 中高を通して身だしなみと自転車無施錠・携帯電話の規則違反を見逃さず指導する。・挨拶の意義の啓発 教育相談体制の再構築と効率化 現職教育による教職員の理解 生徒情報の把握、共有と守秘 	<ul style="list-style-type: none"> 通年遅刻者数の増減と個々の事情の把握・校内巡視の実施 P T Aと連携した交通指導・交通事故の発生件数とその把握、対応の様子 身だしなみ指導・駐輪場の施錠及び使用状況 来校者など外部からの提言 カウンセリング室利用状況 ケース会議の実施状況 情報共有の具体的手立て 	遅刻者数は減少傾向ではあるが、指導目標には達していない。一律的な事後指導よりも個別の対応がさらに求められる。事故報告は11件でこれも減少し、セーフティーカード発行数も減少したがこれも目標には届いていない。また、外部からの提言が3件と去年より増えている。駐輪・施錠指導はかなり定着し、コンテストでも入賞しているが、遅刻と同じで一定数の繰り返し指導の必要があった。みだしなみ指導、教育相談については早い段階での対応ができていた。	B	事後の指導・支援については一定の成果もあって形が整いつつあり、現行の取り組みを継続する。加えて事象が起こる前の取り組みについて、より具体的な生徒への指示や啓発を重ねる。そのためにも、中学校や外部機関との連携、情報共有についても受身にならないことが大切になる。本校の教育目標を芯として職員による生徒への働きかけをさらに進めたい。具体的には朝の挨拶から授業、個別の相談、部活動等のあらゆる場面でどの教員からの声かけをより積極的に行う。
4	FDキャリア教育推進部が中心となり、中高の教職員が互いの課題を認識する機会を作り出し、貫教育の現状の改善点を模索し、新たな展開を模索する。	中高一貫の具体的な検討が進んだか。 2年次からの内進・外進と課題が検証ができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 中高の教職員によるFD研究テーマの設定や公開授業の実施による課題意識の共有 新カリキュラムを意識した授業改善の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> FD会議等での情報意見交換会の実施。互いの公開授業の実施・見学状況 FD会議での検討内容 	全員が研究授業を実施し互いを高めあう風土は定着した。次の段階として「考える授業」のための工夫を刺激を受けながら探っている。新たな普通科への取り組み協議を通して中高の連携はより取れるようになった。	A	新たな普通科の土台となる授業づくりにおいて「考える授業」の創造と自発的学習を促す仕掛けを全教職員で研究授業や研修会を通して追求していく。新制度入試についての正しい情報を的確に提供する。

学 校 関 係 者 評 価	
平成31年 2月21日 実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> * 毎年の進路状況や部活動の成績から、文武両道の教育が実践されていると思う。生徒自身のがんばりは無論、先生方のチームでの指導の結果である。 * 「キャリア桐の葉」や「桐蔭総合大学」の取組はすばらしく、具体的に世の中の職業をイメージすることで、生徒は確固たる目標ができる。 * 生徒にやる気を出させること、その気にさせることが生徒の自信に繋がり、自立的な生徒、積極的な生徒に育つ。今の桐蔭の取組はその重要性を認識させるものである。 * 県民文化会館での桐蔭展は、部活動等の日常の活動状況がうかがわれ、保護者や学校関係者以外に学校を知ってもらう上で意味のある機会である。展示内容はレベルの高いものが多く生徒の真摯な取組姿勢が連想される。授業時間以外の課外活動は生徒の感性や能力を発揮、発展させる重要な時間であり、スポーツだけでなく、文化活動、創作活動をこのような形で紹介する機会を今後も継続してほしい。 * 来年度からの普通科7クラスの新カリキュラムへの移行や新大学入試制度への対応、情報提供等、桐蔭を取り巻く社会や時代の動きに対応し、必要な改革、改善がなされている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校教育は教職員にとって質量ともに負担が大きい内容だが、いかに効率よく要点を教えるかが大事である。授業内容や工夫する点について教職員間での意見交換(意思疎通)を日頃からはかり、スキルとマインドを磨くことが重要である。 ○ 旧帝大、難関私立の進学実績を高めるには戦略的な視点も重要である。 ○ 課外活動は学校生活充実には重要な時間であり、ボランティアなど地域の人たちとふれあう時間なども将来の人間形成に重要な意味を持つ。地域社会に目を向ける機会を学校として支援してほしい。 ○ 保護者アンケート結果から、A 評価の割合が低いように思う。特に、項目2, 3, 4, 5, 8, 11, 16で評価が厳しく、学校の頑張りが十分に保護者に伝わっていないことも考えられる。これらの内容について分析し、課題解決策を具体的に検討し、学校として優先順位を設定し取り組んでいくべきである。 	